

# 身体障害領域に従事する作業療法士のコンピテンシー

M133792 佐 近 隆 二

## 1. 研究背景

わが国では高齢化社会対策や介護保険制度の充実により、多くの作業療法士が輩出されている。リハビリの現場では、新卒の作業療法士は早期に戦力となる状態まで教育するだけでなく、卓越した業績を上げる作業療法士を教育することが求められている。本研究では、優秀な作業療法士の能力を明らかにするため、高業績者の行動特性の概念であるコンピテンシーに着目した。

## 2. リサーチ・クエスチョン

卓越した業績をもたらす作業療法士のコンピテンシーとは何か。

## 3. 調査方法

本研究は Spencer & Spencer (1993) のコンピテンシーの定義である「ある職務または状況に対し、基準に照らして効果的、あるいは卓越した業績を生む原因として関わっている個人の根源的特性」に準拠して調査設計を行った。

臨床の現場で活躍している卓越した作業療法士8名、平均的な作業療法士8名から作業療法士16名からインタビューを行った。インタビュー結果を基に質問紙を作成し、広島県作業療法士会会員へ696部配送し、235部が回収（回収率33.8%）された。そのうち、無効回答を除き228部（有効回答率97.0%）を統計解析に用いた。

## 4. 調査結果

### 4-1 因子分析, 信頼性, 妥当性の検討

質問紙の結果を探索的因子分析にて解析した。因子負荷量において、意味内容に矛盾のない解釈可能な最適解を得た。結果、5因子24項目が残った。Cronbachの $\alpha$ 係数（ $\alpha$ .85~.70）により、十分な内的整合性がみられた。

妥当性は、内容的妥当性と、併存的妥当性を検証した。内容的妥当性の検証において、先行研究のレビューや専門家パネルにて妥当性が認められた。次に併存的妥当性で用いた一元配置分散分析の結果、「チーム効力感（ $p < .001$ ）」、「業務構成（ $p < .001$ ）」、「他者への配慮行動（ $p < .01$ ）」、「スタッフへの育成行動（ $p < .05$ ）」の4因子が業績に影響を与えている因子であることが明らかになった。

### 4-2 卓越した業績と平均的な業績を規定する因子

次に、卓越した作業療法士と、平均的な作業療法士で分けて独立したt検定を行った。結果、作業療法士

のコンピテンシーである「チーム効力感」（ $p < .001$ ）、「業務構成（ $p < .001$ ）」、「他者への配慮行動（ $p < .05$ ）」、「スタッフへの育成行動（ $p < .001$ ）」、「組織への適応行動（ $p < .05$ ）」の5因子は卓越した作業療法士と平均的な作業療法士を区別する因子であることが示唆されたのである。

## 5. 結論および含意

### 5-1 結論

「チーム効力感」、「業務構成」、「他者への配慮行動」、「スタッフへの育成行動」の4因子は、卓越した作業療法士と平均的な作業療法士を峻別し、卓越した業績に結びつくコンピテンシーであることが示された。

### 5-2 含意

卓越した作業療法士像を明確にしたことで、具体的に作業療法士の教育として利用することができる。本研究の結果は定量化されているため、卓越した作業療法士になるためには、具体的にどの因子が何点必要か、把握ができる点は有益であると考えられる。卓越した作業療法士像を難易度ごとで段階付けることにより、作業療法士のレベルに応じた教育を行うことができる。そして、卓越した作業療法士に成長する成功率が高まることはより有益なものであると考える。